第7回国立市介護保険運営協議会

日 時 令和7年3月21日（金）午後7時から午後9時

場 所 市役所3階 第1・2会議室

出席者 林会長、新田副会長、榎本委員、小出委員、小林委員、澤地委員、瀬戸委員、信坂委員、前田委員、水川委員、森平委員、山路委員、山本委員 以上13名
高齢者支援課事務局

【林会長】

こんばんは。では、定刻となりましたので、またメンバーも、会の成立に必要なメンバーが集まっておりますので、第7回国立市介護保険運営協議会を始めたいと思います。

会議次第に沿って進めてまいります。まず議事録の承認ですが、事前に送付した前回の議事録の確認ですが、何かお気づきの点、ございましたでしょうか。

事務局のほうに何かありましたか。

【事務局】

特段、事前には来ておりません。大丈夫でございます。

【林会長】

そうですか。ではこのとおり承認ということでよろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

【林会長】

では、そのようにさせていただきます。

次に議事の2番目ですが、小規模多機能型居宅介護事業者の公募に関する報告についてです。

事務局から説明をお願いします。

【事務局】

それでは、皆さん今日もどうぞよろしくお願いいたします。

議事の2番目、小規模多機能型居宅介護事業所の公募に関する報告について御説明させていただきます。特に資料等、御用意ございませんで、口頭での報告となります。

もともと今日の会議の中で、小規模多機能型居宅介護事業所の公募があった場合には、その審査をお願いしたいということであらかじめ御連絡をしておったところでございますが、委員に第一報速報で、メールでお伝えしましたとおり、結果としては、今回の公募には応募をしてくださる事業者さんございませんで、公募不成立となってしまいました。今後については、また市場環境等を見極めながら、次の公募をいつやっていくか、どんなふうに行えば応募いただけるかを検討しながら次を考えていきたいと思っておりますので、御了承いただければと思います。

以上、報告でございました。

【林会長】

ありがとうございます。

ということで、残念な状況なのですが、何かこれについてございますか。

山本委員。

【山本委員】

いつもお世話になります。ありがとうございます。当法人で今回、挑戦させていただ

こうと思っておりましたが、銀行の皆様にご説明する時間がかかりかかるということが分かりまして、今回は断念させていただきました。また次回、機会がありましたらよろしくお願ひしたいと思ひます。

以上です。

【林会長】

ほかに何かござひます。よろしいでしょうか。

小出さん、ありますか。

【小出委員】

非常に残念なことかなと思ひて、銀行の調査で。あまりよく理解できなかったんですが、どうひう。

【林会長】

では赤尾課長。

【事務局】

すみません、今回の公募については、今、山本委員からお話がありました、公の状態としては、どこからも応募がなかったというところござひまして、その理由であるとかというところまでは、公開情報ではなかなかお伝えできないところござひますので、その点は御理解、御了承いただければと思ひます。公の会議の場ということで御理解いただければ幸ひでござひます。

【新田副会長】

じゃあもうちょっと言ひましようか。いいですか。

【林会長】

新田副会長。

【新田副会長】

恐らく、あそこで小規模を具体的に建築をすると、やっぱり1億かかるんですね。全体として。1億をきちんと生産ベースに乗せてやっていくというのはなかなか実は大変なことで、やはりかなりボランティア的なものを含めた大規模なものでしか、あそこは運営できないだろうなという感じがするんですね。という意味で、融資の話ももちろんあるんだけど、銀行から考えると、こんなマイナスのところ何でそんな1億出すんだという話になるのは当たり前なことだろうなと思ひて、そこは理解されますよね。

【小出委員】

とすると、今後あちらの場所を小規模多機能で公募をかけるときには必ずこの問題が出てくると思ひますけれども、そうするとあの場所でも今後なかなか難しいということになりますか。

【林会長】

事務局お願ひします。

【事務局】

一般論としての申し上げになりますが、確かに市場環境も含めて、今回手が挙がらなかったことであるとか、今までの公募のデータなんかを見ると、運営がそんなに簡単ではないだろうということはあるのかもしれないなと事務局でも受け止めてござひます。それに向けて、今回の公募でも、土地の賃借代のところは、議会の議決を前提となりますけれども、無償で貸付けをさせていただくということであるとか、そういった、少しインセンティブというか、経営面のダメージを軽減する、プラスになるような施策も一緒に考えて今回やっつつもりでござひました。今回は結果として、こういう状況ではあったので、今後については、さらにそういう金銭的なメリットが必要なのか、あるいは

市場環境の変化で、この後それが解消されて、あそこで無事にやっていけるようになるのかというところを見定めていきたい、検討していきたいというのが事務局の立場でございます。

諦めたわけではございませんで、今後に向けて、また時期を探っていきたいという思いでおるところでございます。

以上です。

【林会長】

よろしいでしょうか。ほかにございますか、この点について。

それでは議事を進めます。議題の3番目は高齢者支援一般施策にかかる検討部会の報告についてでして、資料の16というのがありますので、それを御覧いただきながら、事務局からの説明を伺いたいと思います。

事務局、お願いします。

【事務局】

では、お手元資料16というものは本日配付させていただいた資料でございます。御覧いただければと思います。前回、1月のときの運営協議会で設置を認めていただきました高齢者支援一般施策検討部会について、2月、3月と2回開催をしまして。その議論の内容について報告をさせていただきたいという内容でございます。

資料16、1ページの1番のところです。部会開催日、2月27日と3月13日、2回を開催させていただきました。部会委員はここに記載の7名の先生方に御協力いただいて、記載の事務局のほうで提案等をしながら議論を進めていった次第でございます。

何を審議したかというのが3番でございます。まず背景としましては、高齢者支援の一般施策、介護保険外で、市独自に行っている高齢者支援策について、こちらなかなか、現在の地域包括ケア計画の中では位置づけが明瞭ではないという御指摘を外部からもいただいております。また、過去、平成29年にこれらの施策の見直しの方向性というのは検討して、市のほうでも、事務局のほうでも調整をし、一部実施をしましたが、逆にできていないところもあった中で、改めてどういう状況にあるんだろう、その総括が必要な時期にあるという状況でございました。

3つ目の黒丸ですけれども、地域包括ケア全体の今後というところで考えてみたときに、2040年に向けてということ、前回もお話ししましたが、まさにこのタイミングであれば、高齢者施策一般を、全体を捉え直して、改めて見定めていく必要があるだろうという中で、今回、部会の設置を提案させていただいてお認めいただいた次第でございました。

ということで(2)審議事項、具体的に何をしたかというところでございますが、特に個人を対象とする施策を今回対象としまして、Aとして、現行施策の第9期計画との体系のひもづけを行うということ。Bとして、現行施策の妥当性の検証に絞った議論にさせていただきました。本来、見直しとなりますと、ここに投じていた資源をこちらに振り向けていくんだという新しい施策もセットで議論をしていくことが重要かと思うのですけれども、今回については、新しい施策の本格的議論は行わず、それは今後の運協の中での議論に譲るといような形で議論を進めさせていただいた次第でございます。

ということで4番、内容の報告でございます。まず(1)として、Aのところを書いた体系とのひもづけでございます。現行の地域包括ケア計画の体系は、記載のとおり、①から④に体系整理されていると認識してございます。めくった2ページの桜の図を覚えていらっしゃる方も多いと思うのですけれども、こちらの体系に1個ずつひもづけて、今やっている施策、例えば高齢者レジャー農園事業という事業があるんですけども、こ

れなどは、その人らしい生きがいを大切にできるという体系を実現するための1つの策だろうというかたちで、ひもづけを考えていたところでございます。こちらに記載のとおり形で、一旦体系はひもづけられるだろうと部会としてはまとめたところございました。

これを踏まえて、3ページ目に進みますけれども、現行の施策の妥当性の検証も一緒にやっていった次第でございます。①として、まず検証の手法と書きました。1個ずつ検証するというのももちろん1つの方法ではあったんですけども、まず今回は、事業全体の立ち位置みたいなものをほかの事業と見比べながら検証してみようというところでスタートしたところでございます。

下の4象限の図が分かりやすいと思うのですが、縦軸に事業目的評価点として、必要性であるとか有効性、またはこの事業が命に関わるものかどうかという緊急性、こういった視点でもって事業評価をさせていただく。横軸に効率性等と書きましたけども、1つの指標として、対象者1人当たりにかかっているコスト、お金を横軸に取りました。4象限に分けられますので、これで左上に入ったものは、必要性も高い、効率性も高い、継続的にやっていくべきものではないかということで、方向性の当たりをつけながら、では実際に、1個ずつ細かく見ていこうという手法で検討した次第でございます。

必ずしも、左上に入ったから絶対継続だ、右下に入ったから絶対やめるんだということではなくて、あくまでこのグラフでもって方向性を見定める。細かいところは詳細に検討していくという形を取らせていただいたということでございます。

また、公平性等の参考資料として、対象者数というのを丸の大きさ、バブルの大きさを示しております、こちらはあくまで参考資料でございます、対象者数、増えているのか減っているのかとか、あるいは人数が少ないからすぐ駄目だという話ではございませんで、そういったところにも留意をしながら1個ずつ見ていくという進め方でやったところでございます。

この分析グラフが4ページ目に載っております。横になっておりますけれども、こういった形で、例えばレジャー農園事業であると、事業費評価点はちょうど真ん中の50点ぐらいかな、1人当たりコストは、これは5,000円よりはちょっと低いかなぐらいのところに位置しておりますけれども、こういった中で立ち位置というのが1つ見えてくるかなと思ひまして、ではこれを見比べてどうだろうという検討に進んでいった次第でございます。

プロットしておりますのは、あくまで今回対象とした、個人を対象とする高齢者支援策でございますので、その点、御注意いただければと思ひます。

こういった検討を進める中で、5ページ目に進んでいただければと思ひますが、各事業の詳細の検討と見直しの方向性というところでございます。1つずつ、ではこの事業はどうなんだろうということを委員の間で議論、討議いたしまして、一定程度、こういう方向性だろうとまとめられたものをこちらの表に掲載してございます。

例えば高齢者レジャー農園事業であれば、これは左上に入っていたこともございまして、継続実施で問題ないという御判断だったと思ひます。長寿慶祝事業については、今、カタログギフトで長寿慶祝品をお渡ししておりますけれども、コストの縮減が一定程度図られているということの評価するような御意見もあった一方で、御本人の身体状況とか病状によっては、御本人がカタログギフトの中から選ぶことがなかなか難しい、そういったこともあるだろうという中で、このままでは事業趣旨にそぐわないのではないだろうかという御意見もありました。そういったところで、3点目になりますが、実は来年度から、100歳訪問のときには、今まではカタログギフトを持参しておったのです

けれども、花束を持っていくような形に変えてみてはどうかということ、市事務局の中で考えて実施してみようと思っておりました。その方向を御紹介しましたところ、これはいいんじゃないかということで、ほかの年齢、99歳とか88歳のときにも切替えを検討してはどうかというところで、一定程度、部会の中でまとまったところでございます。

続けて、敬老大会事業も大変多くの方が楽しみにしている事業であったことであるとか、令和6年度に行った参加型の企画は本当に喜ばれるものだったということをお評価いただいたところでございます。ただ、運営面を含めて行政負担になっている点は否めないだろうということで、目的は一部転換すべき、介護予防に寄与する大会にしていくのがいいんじゃないかというまとめでございます。

ここはさらに議論が進みまして、実行委員会形式を模索してはどうかであるとか、その下はもっと将来的な話になるかと思うんですけども、大きく転換をして、大学通りを借り切ったようなフェスティバルみたいなものでやってみてはどうかという大きな御提案をいただいたところでございます。

その次が社会参加の機会を生かし、つながりを持てる体系にひもづけられました外出支援サービスでございます。こちら先ほどのプロットでは左上に入っておりましたこともあって継続実施ということでいいんじゃないかという御指摘でした。

その下は保養施設利用助成事業でございます。先ほどのプロットでは右下に入っている事業で、どうなんだろうということで議論が進んだところでございます。平成元年度から続いている事業でございますが、事業開始当時の意味というのは既に薄れていってしまっているのではないかと、役割を終えているんじゃないかという議論がありました。利用実態としても、御家族での旅行での利用であるとか、老人クラブでの団体旅行で使うといったような方が多くなってきていて、社会参加の機会を生かしていこう、つながりを持てるようにしていこうという方向性にはそぐわない形も見えてきたらという中で、これは実は、平成29年度のときも廃止にしてはどうかという御意見をいただいたところでございますが、引き続き、その方向性を維持して検討を進めるべきだとまとまったところでございます。

その次がデイホーム事業でございます。こちら先ほどのプロットでは右下に配置された事業でございます。この事業としては、介護認定がなくて、かつひきこもりがちな高齢者の方にとっては非常に喜ばれる、居場所になっている様子があるということをお評価していただいたところでございます。一方で、制度上ですけども、要支援、要介護になって、1人ではデイホームに通えないぞとなりますと、利用をお断りさせていただく制度になってございます。そうすると、先ほど居場所になっていると申し上げましたが、居場所が失われてしまうというようなことで、逆にそういう弊害も起きているんじゃないかという状況を確認できました。

事業開始当時であるとか、もしくは7年前の前回見直しのときと比べても、現状では高齢者の居場所のサロンであるとか、住民主体の通所型サービスBの事業なんかも活発になってきています。そういったことも踏まえると、本事業が役割を終えているんじゃないかという議論に進んでいたところでございます。ということで、こちらは積極的なサロン活動の立ち上げ支援と同時並行で、この事業をサロン活動への移行を進めていくことが方向性だろうというまとめでございます。

ただ、先ほど来申し上げているとおり、居場所として機能している面もあることから、現在の利用者にはきちんと配慮をしてくださいということも御意見として幾つもいただきました。ソフトランディングの工夫も検討するようにと事務局に指導というか、そう

いった方向性がいいんじゃないかという御意見があったところでございます。

続いて③一人暮らしでも安心して生活ができるにひもづけられた各事業でございます。

まず食事サービス、配食サービス事業でございますが、こちらも冒頭の点に示したとおり、安否確認機能を果たしているであるとか、食の面から高齢者のフレイル予防の一端を担っているという評価をいただいたところでございます。ふれあい牛乳事業との類似性もあるということで、そこの親和性のところについての御意見も多数寄せられました。配食サービスは全般的な見直しをする必要はあるかもしれないけれども、それをやり始めるとちょっと大がかりな議論になるので、これは機会を改める必要があるだろうということで、現状では一旦このまま継続ということでの御意見だったとまとめてございます。

2つ目がふれあい牛乳事業でございます。これは配食サービスとの比較の中では、やはりどうしても安否確認機能は弱い部分があるという指摘をいただいたところでございます。そういった中で、このままの事業継続を是とすることは難しいとまとめてございます。他方で配食サービス事業との統合は検討し得るところでございますので、従来型のふれあい牛乳事業については、方向性としてはやはり廃止となるだろう。ただ、長く業務を担ってきた事業者さんとも丁寧な意見交換をするようにと御意見をいただいたところでございました。

3点目が住宅費助成事業でございます。高齢者の住宅費助成でございますが、事業実施の経緯は、振り返ってみますとバブル期に始まった事業で、家賃高騰対策という観点で始まった事業でございました。現在、社会情勢から考えると、既に役割は終えているんじゃないかという指摘でございます。また、資産がある方が対象となるようなケースも実は幾つか見受けられまして、今の年金収入はそこまで多くないけれども資産はたくさんあるよという方がこの補助を受けているというようなケースについては、これはどうなんだろうという指摘、あるいは事業実施の経緯から、UR団地が対象外となっているということもあって、やはり公平性の観点から課題があるだろうということでまとめてございます。

7ページに進みますが、現状を見ると、住替え支援のほうがより求められている状況ではないかという御指摘、また前回の運協でも報告しましたとおり、居住支援法人であるとか、死後事務委任を請け負う民間法人、団体が出てきている環境の変化を踏まえながら、この事業については、住宅政策全体の中での位置づけを、議論をしていくことが必要だろう。そういった中で、じゃあここにかかっているコストをどう振り向けていくかを検討するべきと議論がまとまったところでございます。

その次、下2つでございます。借上げ住宅提供事業と寝具乾燥消毒事業は平成29年度のときの見直しの指摘も踏まえながら、現在は新規停止状態でございます。これは新規停止を維持したまま、現在の利用者が利用を終了したタイミングで事業を廃止していく方向性の意思は変わらないところでございました。

④でございます。医療・介護が必要になっても住み続けられるという施策体系にひもづけられた事業でございます。上の事業は認知症高齢者位置情報サービス提供事業でございます。認知症高齢者の数は今後も増えていくぞということを前回皆さんと確認いたしましたけれども、そういった中で事業の重要性はやはり高いだろうと考えてございます。分析の上では、コストが高い、4象限で右上に位置する事業でございましたので、現在の取扱いサービス……。ごめんなさい、変換ミスですね。取扱いサービス以外にも様々なサービスがあるので、費用対効果の視点を持って他の手法を検討すべきという御指摘。また、認知症高齢者の状況によっては活用しづらい点もあるだろうということで、

そういった点も着目して手法の導入を検討すべき。これはもしかしたら追加導入になるかもしれないというお話もいただきながら、幅広く検討をするべきだろうという方向性でまとまったところでございます。

最後、緊急救急通報システム対応事業については、これも分析上、左上にプロットされたこともございまして、継続実施という方向性でございました。

以上が部会としてまとめた1つの意見ということで表にしております。

(3) その他の意見に書きましたことは、意見の中で、部会としてまとめまではいかなかったものの、今後の事業運営の中で検討すべきであろうということでいただいた御意見を箇条書で記載させていただいております。我々の中でも今後の参考にさせていただきたいと思っておりますので、後ほどお目通しいただければと思っております。

資料は以上でございますが、今後について、補足というか、考えてございますものは、検討部会の報告ということで、今日、運協の場で報告をさせていただきました。この後、質疑なんかをいただきながらおおむねの方向性、よろしければ御了解いただければと思っております。ただ、これでじゃあ全部固めて、廃止に向けて、あるいは継続に向けて動いていくかということ、そういうわけではないかなと思っております、まさにこの後の、第10期計画をつくっていくに向けて、今回の報告を下敷きにして、さらに検討していく部分があると思っております。ここにかかっているコストをどちらに振り向けるんだということは10期のほうに大きくかかってくる部分でございますので、そういった立ち位置でこの後の質疑等を承りたいと思っております。

報告は以上でございます。

【林会長】

ありがとうございました。

それでは今御説明いただいた検討部会の報告について、質問や御意見のある方、お願いします。

【新田副会長】

ちょっといいですか。

【林会長】

どうぞ。

【新田副会長】

赤尾課長さん、これ、いつから始まったか年代言ってくれますか、開始年代。全部。

【事務局】

すみません、お待たせいたしました。では5ページの図というか表に即して1つずつ御報告したいと思います。まず高齢者レジャー農園事業でございますが、開始は昭和57年でございます。長寿慶祝事業は、一番古いもので平成8年でございます。古いと申し上げたのが、88歳と99歳の長寿祝い金は平成8年です。100歳訪問が平成24年から実施でございます。敬老大会、昭和30年頃から行っております。外出支援サービス、平成14年からの事業でございます。保養施設利用助成事業、平成元年からの事業でございます。デイホーム事業、昭和59年からの事業でございます。食事サービス事業、平成2年からの事業でございます。ふれあい牛乳事業、昭和55年からの事業でございます。住宅費助成事業、平成2年からの事業でございます。高齢者借上住宅提供事業でございますが、平成元年からの事業でございます。寝具乾燥消毒事業、平成12年からの事業です。認知症高齢者位置情報システム事業、平成12年からの事業でございます。最後に高齢者緊急通報システム事業でございますが、昭和63年からの事業でございます。

【新田副会長】

ありがとうございます。平成2年はちなみに西暦何年でしたか。

【山路委員】

平成2年は1990年です。

【新田副会長】

1990年。

【事務局】

ありがとうございます。

【新田副会長】

なぜこれを聞いたかという話も含めて、私、検討部会長をさせていただきましたので、追加でさせていただきます。まず、検討部会のメンバーはとてもすばらしいメンバーで、非常に適切な意見をここで述べていただいたということに私からも含めて感謝を申し上げます。

それで、大きなものは、何が悪いとか、何を切るかということよりも、今聞いたのは、1つの大きな課題は、介護保険の開始前、開始後という、これは1つの課題案ですね。介護保険がまだ出来ていないときに、高齢者の措置時代も含めて、福祉策と介護保険事業が始まったというところで、今それを含めて、年代別に見ると非常に分かりやすい。介護保険は2000年に始まっていますから、その辺りから、その前に、何が福祉施策で行われて、何が達成して、何が今の問題なのか、そういう話でございます。

もう一つの大きなメルクマール。生活予防、介護予防ですか、2007年ですね。介護予防事業が始まるんだけど、そこにどのような施策があったかという、その前と後という話があると思います。そして最後は生活支援体制整備事業ですね。その前、後の、いわゆる訪問介護サービスBとか、訪問何とかBとかいう、そういう事業が始まったという話の中で、皆さん、検討会のメンバーが適切な意見を言っていたなと思っています。

もう一つは、その事業所が、どういう人がどうなっているかということを考えると、こういうのは全く先に進みませんので、的確に、この事業がどういう役割を果たしたかどうなのかという客観的な目でいったというのが2つ目でございます。

その後、どういう事業者が行って、政治的な配慮とか何とかというのは、これはまた違う話でございますから、これは置いていきたいと思っています。

その意味で、先ほど赤尾課長が最後に言った、第10期というには、僕はあまりにも遅いと。また延ばすのかという話になるので、それは私は違うだろうなど。検討会のメンバーであれだけ意見を言って、2回言って、皆さんの意見は本当に大切だなと思って尊重するんだけど、それを先延ばししちゃうのかとなると、これはちょっと違うなという中で発言をさせていただきました。

もちろん、皆さん優しいので、残してもいいよねとか、そういう意見はもちろんあるんだけど、この際、やはり的確に必要なものは必要、これだけ時代を含めて終わりは終わりと。終わりじゃなくて、新しい私たちは課題、今現在の高齢者含めて、新しい課題が噴出していますから、そこに対して、介護保険等々で、事業で行わないものを的確に行っていくと。新しいものをつくると。つくり上げると。この作業をすることが必要で、旧来のものに固執する必要は全くないというのが私の意見でございます。また参加したメンバーの中からも発言をいただければと思います。

【林会長】

ありがとうございました。

ほかに質問、御意見ございましたらお願いします。

山路委員、お願いします。

【山路委員】

どうも山路です。今、新田先生の言われたとおりですが、1つは、新田先生が言われたように、これは介護保険の前から、しかも相当前からなされている事業が幾つか、ふれあい牛乳なんかもずっと、連綿と続いてきたわけです。ただ、介護保険が出来て、介護と医療との連携、それから2015年以降は、介護予防・日常生活支援総合事業の推進ということで、介護保険の財源以外からも、一般財源も入れて地域包括ケアづくりをしていこうということになっている中で、要するに時代遅れになっているというか、そもそもやっておかしいような話がいっぱいあって、特に私が強く申し上げたのかもしれないけれども、ふれあい牛乳なんていうのは、希望すれば一人暮らしの高齢者がもらえるというところもあるので、みんな広がっていくわけです。なくしては困るという意見も当然出てくるわけだし、そういうふうに恩恵にあずかっている人からは、デイホームサービス事業もそうなんですけれども、反対意見は必ず出るんですけども、しかし、これからの地域包括ケアづくりということを考えた場合には、もうそこら辺はきちんと切っていくことが必要ではないかというのが1つの大きな柱として、今回の見直し報告になったということだろうと思います。

それからもう一つ、大事な話は、資料16の一番最初のページ、背景の3ポツ目に、事務局がまとめてくださっている意見そのものですが、やっぱりこれから2040年に向けて、後期高齢者、75歳以上、85歳以上の後期高齢者がどんどん増えていって、要支援、要介護、それからねたきりの高齢者が増えていく中で、どう支えていくのかということ、従来の、今までやられてきたばらまき福祉を切り捨てるのは、なくしてしまうのはもちろんだけれども、従来の介護保険の枠の中ではやっぱり支え切れないような問題がこれからいっぱい出てくるわけだから、これはなかなか、そう簡単に結論は出せないけれども、ゆっくりはしておられないので、10期に入ったら直ちに今回の報告の内容にとどまらず、高齢者、特に後期高齢者をどう支えていくのかという地域づくりに向けてきちんと議論していく必要があるんじゃないかという認識でほぼ一致したと思います。

私からは以上です。

【林会長】

ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

小林委員。

【小林委員】

今回、2回参加させていただきましてありがとうございます。非常に示唆に富んだ話を伺って、きちんと考える時間をいただきまして、また意見をまとめさせていただきました。基本的にこの形でよいと思うんですけども、やはり衣食住の中でも、特に食住のバランスをぜひ考えていただきたい。私のほうで前にお話ししたのが、住宅にまつわる全ての窓口というのはどうでしょうかという話をさせていただきました。そういった意味では、いろいろなこと、お財布もあるので、ニーズとウオonzというバランスをぜひ考えていただけないかなと思います。ニーズだと絶対に必要だということと、ウオonzはただ欲しいということですね。そこの部分をどうたて分けていくかということと、時代が大きく変わったので、新たなニーズもあるので、いろいろくっつけたりとかするものと、新たなウオonzは何かなところ、特にニーズを最重要視しながらバランスよく進めていただければと思っております。2回参加させていただきましてありがと

うございました。

以上です。

【林会長】

ありがとうございます。

小出委員。

【小出委員】

新田先生と山路先生おっしゃったことが全てだと思いますけれども、この検討部会の中でも少しお話しさせていただいたのですけれども、確かに環境が変わってきて、介護保険も始まって、最近では、住民主体のB型サービスみたいなものも出来てきましたという中で、やはり大切なことは、高齢の方の食がどうあるべきかとか、住まいがどうあるべきかとか、国立市の中でどのようなビジョンが大切なのかということを観点に決定をされたと思っていますし、今後もそのように進めていくと思っています。やはり、例えば昭和とか平成の始め頃には考えられていなかったような、例えば市民とか地域が担い手となり支え手となるというようなことになってきていると思うので、そういった視点で、今後もこういった事業、一般施策の在り方を考えていただければと思います。

以上です。

【新田副会長】

いいですか。

【林会長】

はい。

【新田副会長】

貴重な意見ありがとうございます。まさに食と住まいの中で、じゃあ牛乳というのは食なのかという話なんです。今、この時代、1955年に食と栄養価という問題と、今の高齢者の食という問題、全く違うだろうと。このときは見守り支援というのが多くメインだったと。今、小出委員が言われたように、やはり食という話になると、皆さんの議論にあったように、今は配食サービスというのがあるんだけど、さらに朝とか、あるいは集まって食とか、そういったような一体的な食という課題はやはり福祉施策の中でつくっていくということで、今、配食サービス、5社入ってるんだけど、さらにその栄養価を含めて、それで皆さん満足してるのかという問題。ただそれだけで配食サービスを配られている人以外で、まだ配食していない人で、あつという間に低栄養になって要介護になっていくという人が結構見受けられる中で、そういう人たちはきちっと、やっぱりインプレッシブ、防御していくという、こういう施策、これこそが私は市の施策だろうなと思っていますので、今小出委員の発言、まさに賛成でございます、そこには住まいがないと駄目ですね。きちんと住まいが保障されるということも含めて一体的な施策になるだろうなと思いますので、市の、これはどこで検討するのかなかなか難しい話だけど、ぜひ一緒になって考える機会ができればなと思います。

【林会長】

ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

瀬戸委員、いかがでしょうか。マイクどうぞ。

【瀬戸委員】

今住まいというのを、今まで割と住まいは後回しにされていたような気もするんですけれども、新しいバリアフリーの環境の中にいるということだけでなく、社会参加が可能な、そういう状況の中、最も、最もと順番つけちゃいけないのかもしれないんです

が、ケアも、あと医療ももちろん大事だと思うんですけども、ただ生きながらえている高齢者っていうイメージは、もう、ちょっと、ないんじゃないかなと。社会との関り。どんな形にせよ社会と関わっていくことを継続していける高齢期が保障される住まい方ですかね。そういう、バリアフリーは当然、最低ラインの条件だとは思いますが、そこへ発展していくのがよろしいのかなと思っております。

あと、ちょっと道が外れ、発展しちやい過ぎるかもしれないんですけども、高齢者だけということを考えるのではなく、大人はもちろん、子供たちとの融合する地域への発展をにおわせるようなとか、それも想像できるような方向性があるって、そして高齢期のことを考えていけたらなと思っております。

【林会長】

ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

事務局、今日はこんな感じで皆さんの意見を聞くということでもよろしいですかね。

【事務局】

はい。

【林会長】

質問といってもそんなになかったようなので。

【事務局】

ありがとうございます。

【林会長】

それではですね、この検討部会の報告を注視しながら、ただあれですかね、10期じや遅いという御意見、御指摘がありましたので、次の議題で次期事業計画策定に向けたというのがありますから、そこでもしありましたら出していただきますかね。

それでは議事の3はよろしいですか。では進めます。

4は次期介護保険事業計画策定に向けた論点整理②ということですか。事務局から説明をお願いします。

【事務局】

ありがとうございます。次第の4番、次期介護保険事業計画策定に向けた論点整理②でございます。前回、1月の運協のときが論点整理①としまして、そのときは我々のほうから国のほうの審議会が出た資料を参照、説明させていただいて、一緒に状況の確認ということをしていただいた次第でございました。今回は②としまして、それを踏まえて、各委員の皆様のお考えになる論点、どういうところにあるんだろうということを教えていただくというふうな進め方にしたいということで、事前に委員にはメールをしておったところでございます。今日全員にお配りしている資料の中には、そういった中で、呼びかけに応じて委員がつくってくださった資料、2人の委員から資料を頂いておりますので、こういったところを確認しながら、特に資料提出までは至らなかったけども、今日この場でということで、もしよければ皆さんから御意見をいただければと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

【林会長】

それでは、その方向で、ここでの議論を進めていきたいと思いますが、事務局からの今日、新たな資料の提出なかったんですが、今ありましたように、瀬戸委員と小林委員から事前に資料提出ありました。また2人の委員以外に、資料の提出はないけれど御意見があるという委員もいらっしゃるということですので、その委員にはまた後ほど御発言いただきたいと思いますが、まず瀬戸委員から御説明いただいてよろしいでしょうか。

【瀬戸委員】

今、さっき資料に関連したことをしゃべっちゃったと思うんですけども、あれですね、このスライドの絵のことですね。

【事務局】

そうですね。

【瀬戸委員】

すみません、これは言葉を書くよりパワーポイント作っちゃったほうが私は楽だったんで、事務局のほうに説明するためと思って描いたものなんですけれども。これは夢の世界かと思われると思うんですけども、まさにそうなんです、実は、これをもし町の中に、衛星から取った地図の中に、これ、関係のないところを暗くして、このような機能を持つところをピックアップすると、地域の中にこういうものがあるよというところを広義として、そのモデルとして別個に考えたという仮想空間と思っていただければよろしいのですが、私が高齢者として、どういうふうに死んでいきたいかなというふうにまず考えました。

会議の中で、新田先生でしたか、訪問介護、訪問診療、訪問看護、その中で、その合間にはっと息絶えたんだったら、孤独死じゃないと。確かに私もそういう、ふんだんにサービスを受けながら、その合間に、気づいたら死んでたという状況が一番いいなど。そういうふうにだったら、どういうふうに住んでいたらいいかなという。そこにステーション、この場合ケアステーション、スタンバイして、いつでもケアに駆け付けますよと。ちょっと虫みみたいな絵になっているのが高齢者です。高齢者のところに、この場合はバリアフリーで、新しくつくってもらったおうちという感じで、いつでも来てくれると。

これは単に、これだけの機能の集まりではなくて、災害時に大きな力を発揮するという、そういう機能も持つところで、ちょっと地域包括から超えちゃってる機能、仕事から超えたところをイメージしてるかもしれないんですけども、避難住宅ができるわけです。青いの。そのこの境界の一人暮らしの高齢者のビレッジの中に。それまで高齢者の一人暮らしで建てていただいた小さなおうちが、実はインフラ設備が整っていて、災害時にはそこから逆に電力だとか、いろいろなものが供給できるような状態になって、それでステーション機能、これはキュア。ケア、プラスキュア。ですから医療も薬剤も全部入り込むんですね。災害時にはこのような凝縮された高機能な地域になると。ですからステーションという役割がすごい可変的で、すごい機能を持つと。食料備蓄。発電もすると。停電になったときにはここが発電の源になるというふうに。

下はちょっと平穏時ということなんですけど、通常と平穏とどう違うんだと言われると、私もちょっと迷うんですが、ここは高齢者が住んでるものですから、昭和の古きよき時代ののどかな、ふるさとの歌の中に出てくるような雰囲気を出している地域でありまして、そこを幼稚園とか保育園の先生がときどき訪れる。先ほど私、高齢者を1つのレガシーとしてつないでいく、象徴として、次の世代に続けるということで、こういう役割があるんじゃないかなと思っておりまして、ちょっと理想に近いかもしれませぬけれども、災害はしばらく来ないだろうと思われるようなところと。

下に、ポイントとして考えられる点として、ケアステーションの機能が非常に重要になってくるんじゃないかなと。私ごときがそんな偉そうなことを言っても何なんですけれども、24時間対応、災害時の避難の拠点としての役割を持つ。そこまでいかななくても、例えばここにそれだけの機能を持てば、高齢者のみならず、付近の人たちみんな安心して、建築許可しないとか、反対運動起きないと思うんですね。これだけのステーションがでんと街中にもしあれば。重機能化なんて書いて、高機能と、その辺の専門用語

は私の分野じゃないというか、分かりかねますが、サテライトステーションでももちろん構いませんし、そういうところからスタートしていいかかかなと思って、ちょっと絵にしてみました。以上です。

【林会長】

ありがとうございます。

【新田副会長】

後ほどでいい？ 意見は。

【林会長】

今お聞きしましょうか。質問や御意見などいただきます。

【新田副会長】

瀬戸さんがビジュアル化してありがたい話でございまして、要は新しい介護保険の大きな国立の論点だのアウトカムというのは、先ほど事務局から出された、いわゆる4つの論点ですね。その人らしい生きがいを大切に、社会参加で、一人暮らししても安心してきて、医療、介護等々。この4つの大きなアウトカムがあると思うんです。アウトカムをつくる、アウトカムでやって、それがロジックモデルになるわけですよ。

で、雑駁なロジックモデルでもうやっていけない事態になったということで僕は瀬戸案、瀬戸さんの案を、僕もこれ前から言ってるんですが、これ何かというと、24時間対応可能なサービスというのは巡回型サービスです。巡回型サービスが全国で広がらないという現状があって、今、昨日も厚労省の老健局事業で議論があったんですけど、もうロジックモデルをきちっとロジカル・オブ・ロジックで、そこの中にまた焦点をつくりましょうよと。その地、例えば国立で巡回型サービス、ステーションモデルです。つくるために何が必要かという。もうきちっとつくり上げる。ある地域では、老朽化した特養に対して、特養が必要かどうかモデルという、そういう論点のところもあるんですね、地域によっては。もう要らないだろう。もうこれから要らないだろうという話も含めて、そういったロジックをつくり上げる。雑駁、さっきの4つの指標ではなくてね。というのはこれが1つです。

もう一つは、災害時というのはBCPなんですね、これ。要は地域BCPをつくり上げるという話で、今、様々議論されてて、地域BCPとは何かというと、一つ一つの介護事業所、医療機関、国立は小さいので、それだけでやっていけないだろうという話で、地域BCPをきちっとつくり上げると。これを早々につくり上げなきゃいけないという話になって、今、個人避難計画をどうするかと。障害者からどうするかというのは、これが必要で、その基本でどこが見るかというのがいろんな構図の中で、こういうのがあるだろうと思うんですね。だから決して空想ではなくて、瀬戸さんの言う話は。現実化して、それを我々はやってきていないんです。この介護保険運協でもずっとそれを、やっぱり提案を、何だろう、第7期あたりかな、6期あたりか、よく分からない。巡回型サービスを1回持ってこようと。1回来たんです、2箇所。2箇所来たんだけど、それが潰れたんですね。だからそういったものをしっかりと支援する形で、なぜできないのかということロジカルにやっぱり検討していくことが、この今日の話の計画3、論点整理の中の、私はロジックだと思うんですね。

そこをきちんとしてつくり上げる。空想ではないということ、現状とそれから新しいものという形でつくり上げる。例えばステーションをつくるってどういうことですかという話じゃないですか。もともとよ言ってるんですが、ヘルパーさんたちに、例えば何人でだったら中学校区に。国立1つじゃ無理なので、中学校区域に何人いたらヘルパーさんたちでできますかと。そこに要介護者も含めて、要支援者も含めて、生活者も含め

て、何人で見れますかと。24時間体制ですよ。それをきちんとやっぱりつくり上げるんですね。1つだけ、まずモデルにしてもいいと思うんですが、それをつくり上げる。それには今のヘルパーさんたちに1.5倍くらいの給料あげて、それだけあなたたちやってくださいと。それでDXを入れると。場合によってはそこにDXを入れて、地域を施設化するしかないんですね。そうするとその人たち、今この状況で放っていったら、みんな施設化しちゃいます。居場所がなくなって、サービス高齢者住宅とか等々へ行って、そこで何かあったら、もうどこかへ行って、そこで24時間医療漬けになると。やっぱりそれを避けたいじゃないですか。という意味で、これはとても重要な話でということ、僕はこのビジュアル化したものに対して、これを含めて、最初にこれをたぼうが市民には分かりやすいかも分からないですね。というふうに思います。

【林会長】

ありがとうございました。ほかに質問や御意見ありましたら。

小出委員からありますか。どうぞ。

【小出委員】

今、新田先生の地域BCPのお話がすごく興味があるんですけども、現状では、個々の事業者にはBCPはあるけれども、国立市全体としての介護というか、特化したBCPは今ない状況……。

【新田副会長】

在宅療養推進協議会の中で災害部会があって、今、地域BCPを部会で検討しているところです。

【小出委員】

今検討中ということですか。

【新田副会長】

はい。

【小出委員】

分かりました。ありがとうございます。

【林会長】

ほかにいかがでしょうか。

では、もう一人の、小林委員からも資料が提出されてますので、そちらの説明をお願いしたいと思います。よろしくをお願いします。

【小林委員】

一部、前回の3の高齢者支援の施策に関わるところでも触れてしまったんですけども、やっぱり住宅という部分の大家の部分と住む人の両方が、また地域の人も、ごみ屋敷で言えば周りの人も迷惑になっちゃいますので、そういった部分をどんどん進めていくのが大事ではないかなということで、先ほどちょっと申し上げましたけれども、地域包括支援センターとかの部分に、住宅にまつわる全ての窓口があればいいんじゃないかなという面です。

黒丸の2番が、やはり介護保険に関して、健康な方とか、健康維持に頑張っている人へのモチベーションアップがあったらいいんじゃないかなということ、国立市で何かできたらいいかなというところ。

3つ目のところが、生きがいづくりの創出ということで、ペット、非常に国立市の方が多いと思いますので、それとか交流、サロン活動、または農作業とか、盆栽もそうですね。そういったものを披露する場とか、あとはペットも亡くなることもあるので、ロボットを使ったペットの推進とか。それがこれまでのイベントに抱き合わせてできたら

よろしいんじゃないか、またその人たちが担い手になったら、比較的負担が軽くなるのかどうか分かりませんが、そういうものがあるのではないかという話。

そして裏面に行きましては、人材の育成ですね。私はずっとこれを言い続けているんですけども、やっぱり人材の確保がないと厳しいという部分で、例えばそういったものに対して、エッセンシャルワーカーの人たちに対しての、長くやればやるほどメリットがあるとか、そういうものがあつたりとか、あとは市内の小中学校に対しての体験があつたりだとか、あとは、正直言うと、教育委員会ではなかなかヤングケアラーに言及しないと思うんですね。なので、やっぱり介護保険の協議会とか、様々そういったところからのヤングケアラーの支援ができないかというふうに思っております。やっぱり人材、補給路が断たれた作戦とか計画には未来はないですので、その辺りを何かしら工夫できないかということを検討していただければと思っております。

以上です。

【林会長】

ありがとうございます。小林委員の御説明がありましたが、質問や御意見がありましたらお願いします。

では、また後ほどありましたら、そのときに御発言いただくということで、資料提出されていないけど、御発言がいただけるという委員は小出委員でいらっしゃいますね。

じゃあ小出委員、お願いします。

【小出委員】

ありがとうございます。すみません、資料を作成できずに申し訳ありませんでした。論点3つございまして、1点目が、先ほど小林先生もおっしゃってたんですけど、ケアラーの支援というのが1点ございます。もう一つは、先ほど先生からありました総合事業の中のB型事業というのが国立市内でもありますが、訪問とかステーションとか。そのこのB型事業、いわゆる住民主体型の居場所みたいなことが2点目でございます。3点目は、検討会でお話ししたかもしれません。終活支援といいますか、人生最期の部分をどうやって支えていくかというところ、その3点がございます。ちょっとこれを論点として挙げさせていただきたいと思えます。

まず1点目のケアラー支援です。最近私の父親、両親が要介護状態。最近というか、大分前からなんですけども、要介護状態になりまして、遠距離で名古屋に住んでおりますので、遠距離ケアラーで、かつ私は今、勤めておりますので、いわゆるビジネスケアラーで、子供もおりますのでダブルケアラーでもあります。なので、こういう何と申しますか、ケアラーというのも恐らく日本人、ほとんどケアラーなんじゃないかと思うくらい、一億総ケアラーの時代になってますので、そういった中で、どのようにケアラーを支えていくかというのはほんとに重要な課題だと思っております。国立市、市と行政の範囲の中でどうやってやっていくかという問題があるんですけども、ぜひビジネスケアラーだったり、ヤングケアラーだったり、私の両親は老老ケアラーで、民生ケアラーなんですけれども、こういったところをどうやって支えていくかは非常に大きな問題かなと思っておりますので、ぜひ論点として、10期の計画の中で何かお話しいただければすごいありがたいかなと思えます。

それからもう一つ、B型事業でございますけれども、これは先ほどもちょっとお話ししましたけれども、地域に住む住民とか市民が、担い手としてなっていると。さらにその担い手であり、さらに支え手というか。で、支えられる側でもあり、支える側でもある。両方の側面の出てきた中で、地域に住む人たちの居場所であつたり、役割であつたりというのは非常に重要なかなと思っております。そういったものをB型事業はどうやって

支えていくかというのは大きな論点かなと思いますので、その辺りもちょっと、10期の中でお話いただければいいかなと思います。

あと、最後の終活支援ですけれども、やはり国立市内でも独居の高齢の方はすごい増えてると思いますので、そういった方が最期、人生最期の段階で、どのような生活を、質を維持していくかというのは非常に重要な課題かだと思いますので。最近、墓友なんていう言葉も出てきているように、やはり住民というか、市民同士が助け合っていく取組みたいなのがどんどん出てくる中で、事業、包括ケアであったり、総合事業だったり、国立市の介護事業をやったり、介護事業計画であったりというのは、どうやってそのところに関わっていくかというのは非常に大きい問題かと思っていますので、ぜひこれも論点に加えていただけるとありがたいかなと思います。

ケアラー支援と、それからB型事業と終活支援でございます。よろしく願いいたします。

【林会長】

ありがとうございます。質問や意見がございましたらお願いします。

【新田副会長】

ちょっといいですか。恐らく、ヤングケアラーの話、まずは大変な家族構成の話がありますよね。離婚された方に親がいて、お母様なりお父様が仕事してると。で、要介護のおばあちゃん、おじいちゃんが残されてしまう。そうするとやっぱり子供を見ると。というのが多いわけですね。あるいは若い夫婦で、どっちも出てしまっという、もちろんそういうのもありますが、僕は前者のほうがやっぱり多い感じがして、そのところって、家族支援そのものかなと思って、全体、その家族を支援しないとイケなくて、それで、かつて介護保険の中で横出しサービスという、例えば35万の中だけでも、もう一つ10%つけたサービスと考えた時代があったんですね。でもそのときは、あんまりまだ使われなかった。でも今言われたように、ますます深刻な世界になってきてるので、介護保険事業の横出しとか、そういうものを含めてトータルで、あの中だけでは駄目なので、考えていかなきゃいけないのかなというのは1つあります。

もう一つは、訪問介護B型支援と。これも結局、生活体制整備事業の中に入れ込まれるわけですね。生活体制整備事業は、実は、次期介護保険事業計画の、介護保険とは一体何までやるんだよという話なわけじゃないですか。介護保険は介護の問題まであって、生活は面倒見ないのが介護保険ですね。今の高齢の方たちは、むしろ介護保険に関わるよりも、もっと前の生活が必要な人が出てきているという中で、訪問介護事業Bとか、あるいはサロン、それが必要になるわけ。そうすると介護保険事業の論点を、限界を整理しなきゃいけないなと思うんです。限界を。介護保険はここまでしかできないよねという整理をした上で、私たち国立市は生活支援体制をきちんと、訪問介護事業でとなると、これは介護保険、今まで、市は結構柔軟なんだけど、それでもここに予算をつけなかったんですね。やっぱり一般財源からこれで予算をきちっとつけて1,000万とか、もうちょっと予算が必要なので、この予算をつけるには、徹底してやっぱりそういうのが必要だということを、この論点の中で限界をちゃんと整理した上で、やっぱりちゃんとやらなきゃ駄目よねという、そういう整理の持っていく方をしないと、相変わらず縦割りの、市は縦割りの頭しかないの、予算も含めて。そうするとその限界を超えられないんですよね。ということで、それはとても大きな話かなと思います。やっぱりそこは、こういった協議会でやって、やっぱり限界を超えてほしいというのは僕も賛成です。

もう一つは、終活は、今ACPですね。ACPを実は、東京都が「私の思い手帳」を

発行してるんですが、あれどれだけ発行したかお分かりですか。21万1,000部ですよ。21万1,000部、「私の思い出帳」でACPを東京都がやる。国立はどこまで使ったんですかね。何部。

【事務局】

部数はすみません、ちょっと分かりません。

【新田副会長】

いや、そんなレベルなんだ、恐らくね。それだけ発行していたものを、市という雑駁な世界で、じゃあ国立の高齢者の中で、今の話、終活の中でさらに1,000人くらい、半分で500人くらい、ACPちゃんとできてるか。やっぱりできないんですよ。その辺りからやっぱり限界を感じてきちっとやっていくということで、その次の、終活っていきなりやろうって、終活なんてしたくないよという人が多いので。ですよ。ACPだって、ACPは略で何と言ったっけ？

【事務局】

アドバンス・ケア・プランニングでしょう。

【新田副会長】

違う違う、いい言葉言ったじゃない？

【山路委員】

人生会議ですか。

【林会長】

あらかじめのケアプラン。

【事務局】

もっと分かりやすい、何か市民のに寄り添う。

【新田副会長】

すごい分かりやすい言葉だった。

【事務局】

ごめんなさい、すみません、昨日の。

【新田副会長】

ACPと言うと分からないので、あらかじめちょっと、ちょっと考えよう。

【山路委員】

そんなことまでやってるんだ。

【新田副会長】

で、ちょっとACP。

【山路委員】

昔は、以前は人生会議だったけど、何のことか分からない。

【新田副会長】

分からないよね。

【山路委員】

そういうのが分かりやすいですね。

【新田副会長】

というようなね、新しい発想して、そこで、市民の中で考えていただいて、それで結果としてどうするんだということで、それが終活にもなるんだけどという話だと思って、やっぱりこれにも大きな事業が必要だなと。どうぞ。

【小出委員】

ACPなんです、カードゲームになってまして、それを何回かやったんですけど、

非常にこれ、よくて、やった人全員、ほぼ全員が、これすばらしいと。もっとやるべきだと。そのやったときどきとか、周りの環境とか、いろんなことで、同じカードでも、本人が違う意見みたいなのが出てきたりして、それもまた面白くて、環境によっても変わるし、時代によっても変わるし、あれをもっとはやらせて、皆さんにやっていただければ、本当に終活もっと盛んになるかなと思うんですけども。

【新田副会長】

あのですね、恐らく小出さんの年齢と榎本さん、この辺の年齢になると違ってくるんです。ACPなんてやりたくないんです。分かりますか？

【小出委員】

私も実は高齢の、榎本さんより高齢の方と一緒にやって、その方との中で、そういう意見が出てきますので、ほんとにね、ほんとすばらしいので、皆さんぜひやっていただきたいと思うんですけども。

【林会長】

榎本さん、ありますか。

【榎本委員】

いや。

【林会長】

小出委員、よろしいですか。ほかにいかがでしょうか。

【山路委員】

よろしいですか。

【林会長】

山路委員。

【山路委員】

ほんとになかなかすばらしい意見というか、提言がされてると思うので、ぜひそういう方向で実現してもらいたいと思うんですが、ただ、1つは、財源の問題と、それから、誰がそれを中心になって担っていくのかというステーションの問題。瀬戸委員が言われたステーションにかかる話なんですけど、やっぱりそういうコアになる担い手ですよ。それをどうやってつくっていくのかというのが、やっぱり具体的に、もう少し詰めていかないと、なかなか難しいんじゃないか。それで、かつて介護保険の上乗せ、横出しというか、上乗せを新田先生、御承知のようにやりましたよね。特に重度の、要介護の4とか要介護の5の人たちの上乗せをやってたんですけども、そのときに、結局うまくいかなかったと新田先生が言われたように、うまくいかなかったんです。なぜうまくいかなかったかという、結局、一言で言うと、事業所が食い物にしたんです。要するに、これだけのサービスが、要介護が重度の人たちがいるから、こういうサービスをしますということで、具体的に、本人の、当事者の状況に即してサービスを提供するのではなくて、要するに中身の上乗せをして、実際的にそれを食い物にしていた部分があったからうまくいかなかったと私は理解しています。現実にはそういう面があった、強かったと思うんです。そうならないようにということがやっぱり1つあると思うんです。そういう財源をどこかで捻出した場合に。

終活にしても、終活ビジネスというのが最近出てきているものですから、それも気をつけなくちゃいけないし、それから新田先生が関わっておられる在宅医療の中でも、これだけ在宅医療が広がってくると、当然、ビジネスとして在宅医療をやろうとする人たちがいっぱい出て、在宅医療医ならぬ、財テク医療だと言われている人たちもいるので、その辺も気をつけなくちゃいかんと思うんです。要するに財源どうしていくのかとい

うことと、それからコアになる部分については、もちろん従来のように地域包括支援センターが中心になって、それからやっぱり地域の担い手の人たちをどうやってそれぞれ、小学校単位か、中学校単位くらい。中学校単位で1万人くらいの規模ですかね、国立ですから。それくらいのところにステーションを置いていく、その担い手をつくっていくようなのを、どうやって中身づくりしていくのかは、具体的にこれから、なかなか難しいですけど、検討していく必要があるんじゃないかと思います。

以上です。

【林会長】

ありがとうございます。ほかに。

小出委員どうぞ。

【小出委員】

今、山路先生が御指摘された、そういった制度を食物にする人がもしいるのであれば、それは不届きなことであり、許されることではないので、そういうこともきちんと介護保険運協で、きっちりとしていただいて、そうではないところ、私は今50代なんですけれども、これから20年後くらいに介護される側になると思うんですが。

【新田副会長】

何もないよ。

【小出委員】

すごい不安なんです。この介護制度本当に続くのかと。財源大丈夫かというのはほんとと不安で、なので居場所だったり、B型事業だったり、我々が支えられる側になったときに、自分も支える側になるでしょうし、これが立場がいろいろ逆転するというのもあるんでしょうけど、ほんとに、新田先生がおっしゃったごちゃ混ぜになってくると思うんですね。そういうことを鑑みて、今からほんとに不安を感じているので、恐らく私の世代は介護なんか受けられないんじゃないかと思ってますから、なので自分でやるしかない。今からそう思っていますから、そうするためにどうしたらいいかというのをほんとに今、真剣に考えているところで、そのための居場所であり、役割であり、B型事業であり、ケアラー支援であり、終活支援もまさにそうなんですけど、不届きの人はいらっしゃるでしょう、やはり。そういった制度を食物にする人はいる、出てくると思いますけれども、そういったところではない、健全な終活支援が国立の町で育んでいくことができたならば素晴らしいことですし、そういうのができれば私はぜひ利用したいですし、本当に今現在、不安でしかないもので、これを自分も参加しながら、自分がここに、さっきの4つのビジョンでしたか、国立市が目指す4つのビジョンが、私が介護世代になったときに実現できるように、今から一生懸命頑張って準備していきたいなと思っています。

以上です。

【新田副会長】

2060年の国立市人口分かりますか？

【山路委員】

2060年まで出していましたかね。

【新田副会長】

2060年だよ、80になるのは。小出さんが。

【小出委員】

2060年、80歳になる。

【新田副会長】

ねえ。

【事務局】

すみません、資料を持ってきていなくて分からないです、今は。

【林会長】

お2人の資料をきっかけに、さらにいろいろ意見が出て、次期事業計画を検討する上で、いろいろな論点整理のためのいろいろな材料というのかな、それがいっぱい出てきてとてもいいと思います。ほかにもしありましたら、御自由に。

【新田副会長】

1ついいですか。

【林会長】

はい。

【新田副会長】

小出さんの最後の意見、とても重要で、今の40代を含めて一緒に議論したいですね。40代。50代は大体似ているわけですね。もうすぐ先ですから。40代となると、さすがに見えない世界ですね。日本の人口が8,000万以下になるわけです。そこだと何も見えてこない。今の恐らく、市の赤尾課長とか、みんなそうですよね。

【事務局】

私は今39。まさに40に近い。

【新田副会長】

だからやっぱりそこを含めて、一緒になって議論をして、じゃあ何をつくっていけばいいよねという、すごい未来を考えることも必要かなと思いますけど。私たちは逃げ切り世代ですから何とかなるんですけど。

【林会長】

世代間対立になるから、あんまり言わないほうがいいと思いますよ。

【新田副会長】

はい。という感じで、やっぱり国立で未来を考えるという、そういうのが必要だなと思います。

【林会長】

ほかにございませか。それでは今日は、このメンバーでやるのは最後ということなので、後ほど全員から御発言いただくような形にしたいと思っております。

それでは、一応4についてはこれくらいにしまして、5のその他に進もうと思いましたが、事務局から御説明ございますか。

【事務局】

今日もいろいろな議論をいただきましてありがとうございます。論点整理を含めて非常に参考になる御意見ばかりで、先ほど林会長から、このメンバーでは今日最後となりますというお話ありましたけれども、4月以降、その次のメンバーに、今のお話なんかもきちんと、残る方はもちろんいらっしゃるの、引き継いでいながら、検討を進めていきたい。それも10期では遅過ぎるという御意見もありましたので、早々に進めていけるように努めていきたいと思っております。本当に貴重な御意見ありがとうございます。

事務局からその他でございますが、今日、机上配付をさせていただいたものがございますので、そちらについて、小山から説明させていただければと思います。

【事務局】

それでは私から、国立市地域医療計画中間評価のまとめが出来ましたので、皆様のと

ころに机上配付をさせていただきました。簡単に御説明をさせていただきます。

1 ページ目を御覧いただけると、中間評価に当たってというところがございますので、そちらを御覧いただければと思います。国立市地域医療計画につきましては、平成31年、2019年度から令和10年、2028年までの10ヵ年計画という形で作成をしたものとなります。本来では昨年度、令和5年度に中間評価取りまとめをする予定だったんですが、皆様御承知おきのとおり、この計画が確定後、コロナが蔓延をしてしまったこともありまして、実際に計画が始まってから、ほとんどコロナの状況の対応というものが続いていたというような形になってしまいました。そのため、令和5年から令和6年、今年度にかけて、中間評価という形のものを行いまして、この度、中間評価がまとまったというような形になっております。

地域医療計画ですが、私たちの暮らしの中で、日常療養、あと急変時、退院時、みとり期ですね。この4つの場面における、目指す地域医療の在り方、これについてまとめたというような形のものになっておりまして、実際に行っている数的な評価というような形で、実際には取組の内容等をまとめたものが3ページから、そして事例ですね。やっぱり数的なものだけでは分からないという形になりますので、質的評価というような形で、事例による評価というのを10ページから取りまとめをさせていただいたような形で御覧いただければと思います。今回の中間評価につきましては、15ページから新型コロナウイルスの感染症の蔓延期の活動についてというようなものを取りまとめさせていただきまして、併せて中間評価という形でお示しをさせていただいたこととなります。今回につきましては、報告という形になりますので、詳しい内容につきましては、中を御覧いただければと思います。

報告は以上となります。

【林会長】

ありがとうございます。ということで、これは目を通す必要がありますが、ちょっと見ていて気がついたのが、3ページの1、中間評価の方法についての1行目に、本計画の実際に当たっては、事業評価のツールの1つであるロジックモデルを活用しとありまして、先ほど、新田副会長の御発言の中で、ロジックモデルをつくっていく必要があると。これのこと？

【新田副会長】

いや、これとは違います。

【林会長】

そうですか。

【新田副会長】

ロジックモデルは様々な形でつくられますので、これは医療計画のロジックモデルですね。先ほど、介護保険は介護保険でまた別のロジックモデルが必要だろうなと思い。方法論ですよ。

【林会長】

分かりました。ありがとうございました。ということで、詳しい検討は今日はできないと思うのですが、何か御質問、御意見がございましたら。

【新田副会長】

単純に言うと、今のロジックモデルって一体何なの。時間もなくなりましたから簡単に。4ページ開けてください。アウトカム、目指す姿の達成に必要な4つの要素とあって、そのための手段、方法があって、国立市の具体的な施策があって、評価内容で中間というような形。いわゆる目指す方向に対して、それに対してどうするのかという話で

ございます。いわゆる市の施策は縦割りで言うといっぱい、たくさんやられてるので、それをどういう形の中で組み込まれているかを皆さん、理解できるような形でロジックモデルという話です。

【林会長】

ありがとうございます。何かございますでしょうか。よろしければ、これを、目を通されたことを御実、議論することになるかと思いますが。

それでは一応……。その他でほかにありますか。

【事務局】

事務局からは特に議事ございません。

【林会長】

そうですか。それでは任期満了という形で、次期からは参加されない委員もいらっしゃるということですので、このメンバーでは最後の運協ということになりますので、継続される委員も継続されない委員も含めて、委員全員から一言ずついただけたらと思います。では、どうしましょう。じゃあ山本委員から時計回りでよろしいですか。

【山本委員】

1回1回の貴重な会議に参加をさせていただきまして、皆様からのお話を伺ってとても勉強になりました。本当にありがとうございました。

【山路委員】

どうもいろいろお世話になりました。私、御覧のように早口で、せっかちなところがあるものですから、つつい結論を急ぎがちなところがあったと思うので、その点は御容赦いただきたいと思います。ただもうちょっと、これは私自身の反省も含めてですが、やっぱりせっぱ詰まった状況にあることは事実ですので、突っ込んだ議論を引き続きということになると思いますけれども、できればよかったのかなど。これからもうちょっとそれをきちんと心がけて役立てていければと思っています。よろしく願いいたします。

【森平委員】

私もこういう場所に参加させていただいて、私自身もすごくいろいろ勉強させていただいて、私自身がもう後期高齢者になりましたので、今まで若いとき、40代、50代のときは割に行動範囲も考えることも大きい。だんだん年いってくると行動範囲も狭くなってきますし、考えることやお付き合いなんかも本当に狭くなってくるんですけど、ただ、私はこの国立で、物心ついていからずと過ごしておりますけれど、若いときというのは、国立の中はほんとに高齢の方がいらっしゃらなかったんですね。ちょうど私が幼少のときに、両親が私を連れてここにやってきたように、若い世代の子育ての方たちでいっぱいだったので、それこそ、その辺の道には子供たちが集まっているような、そういう世代から順々に時間を経て、今、自分が年取って見たらば、周りは高齢者がいっぱいなんですよね。ですから本当に世代をずっとつないできて、ここに過ごしていられて、私はすごく国立は住みやすい街だと思っています。ただ、強いて言うならば、小さいお子さんを連れた乳母車、ベビーカーというんですか、今は、あの方たちだとか、高齢の方で足元不自由になってる。私も含めてですけど、動きやすいためには、道路がもうちょっと歩きやすい、車に便利ではなくて、歩きやすい道路、自転車がすっ飛ばしていくんじゃなくて、歩きやすい道路であつたらなというのがあります。そしたらもうちょっと足元不自由になっても、近くのどこかに動き回れることができたならば、このまま無事に、緩やかに国立で過ごしていけるなという思いがあります。そんな形で思っています。ありがとうございました。

【水川委員】

国立歯科医師会の水川でございます。長らく、2期ここに参加させていただいて、介護保険のことをいろいろ。日頃私は介護保険のことはあまり関係していないんですけれども、この機会にいろいろ学ばせていただいて、いろいろありがとうございました。また、あまり意見は述べなかったんですけども、これからも私の仕事として、また生活として、この知識をまた役に立ててやっていきたいと思えます。ありがとうございました。

【前田委員】

お世話になりました。また次期も務めさせていただくんですけども、1期目で3年たつんだということ、ちょうどこの度、社協の介護のほうの係に着任して、正直3年たつということで、ちょうどこちらに参加し始めたときは、介護保険に、仕事で関わること自体が初めてだったので、皆さんの御意見などを含めて日々のケアマネ、あとヘルパーステーションのヘルパーの仕事も含め、いろいろ感じながら、考えながら、皆様のお話を聞かせていただき、自分自身も勉強をさせていただくためにも非常に有益な時間を過ごさせていただきました。

今、私もちょっと年齢的なことがあって、やはり自分が実際にケアマネさんとか、ヘルパーさんとか、利用することになる時代にはどうなるのかなという未来も考えながらなんですけども、気になるのがやはり気象状況とか、戦争もそうなんですけど、日本が本当に平和で生きてられる世の中がいつまで続くのかなというところが一番、非常に不安でしかなくて、やはり緑も減っているというところ。今、道の道路の話もされてたんですけども、緑地帯というところも少なくなって、夏の炎天下が、非常に歩ける道も少ない状況も含めて、何となく、人が行き来がしにくい環境が、どこの町もそうだと思うんですけど、そういう部分も何かしら影響はあるのかなとか、ほんととりとめがないんですけども、自然も含めて、何かしら考えていかないと、どの世代も安心に、安全に過ごせない世の中に陥っていくのかなというところをちょっと思い描いたりしながら、今日はお話を聞いてるだけでほんと申し訳なかったんですけども、ちょっとそういう思いをめぐらせておりました。どうぞまた、今後ともよろしく願いいたします。

【信坂委員】

いろいろ御意見聞くばかりで、どうしても口下手なので。ただ、皆さんの御意見は、ときには現場で、ときには自分の今後の老後のことを考えながら伺って大変参考になりました。とても大切な財源である介護保険が、必要な人に、必要なだけ届けられるような将来になればいいと思えます。以上です。ありがとうございました。

【瀬戸委員】

どうも、私もありがとうございました。あまり語り上手じゃないんですけども、発言いろいろしてしましまして、自分でちょっと恥ずかしかったなという言い方もままありましたけれども、高齢者として、市民として、出席しておりますので、素朴なところを申してまいりました。ありがとうございました。

【澤地委員】

1期3年があつという間に終わったなという感じでございますが、委員の皆様の貴重な意見を伺わせていただいて3年が大変勉強になりました。次期も引き続き参加させていただきますので、今後ともどうぞよろしく願いいたします。どうもありがとうございました。

【小林委員】

小林です。2期6年やらせていただきまして、今回で終わりとなります。最初は何も分からずに、一応、ただ介護に関することをやっていた高校の教員だったんですけども、

そういうところからいろいろ勉強させていただいたり、いろいろ意見をさせていただきましました。昨年は能登に1月から5回、ボランティアに行かせていただいたんですけども、本当に大変な中で、何か行動する、何が足りないというのをいろいろなところで目の当たりにさせていただいたのですけれども、今、国立はまだ落ち着いているところなので、つつい先送りしてしまいがちなのですけれども、いざ何かあったら本当に大変なことというのに対して、やっぱりどこかで線を引いて、どんどん、どんどん、早めに手を打っていくことがとても大事じゃないかなと思いました。何度も言いますけど、やっぱり人材育成、担い手をどうしていくかをぜひまた討議していただければと思います。6年間、ありがとうございました。

【小出委員】

今日最後になります。2017年から参加しておりますので、8年もたってしまったんだなと。非常に長いような短いような感じでございます。この間、有識者の先生の皆様、それから事業者の先生の皆様、それから事務局の皆様本当にいろいろ厳しい御意見もいただいたこともありまして、それがもとで何くそとっていろいろ勉強していたりとかして、本当にすばらしい学びの場になったかなと、今思うとそう実感しているところでございます。この介護運協の委員と同時に、先ほどちょっとお話しありました、総合事業、通所B型の事業にもボランティアとして参加して、ちょうど同時並行みたいな形でやってきたのですけれども、ここの運協の委員をやっているということと、ボランティアとして、市民として、そういった事業に参加するという、本当にすごいいいバランスが取れていて、一方だけだと恐らく得られなかった視点みたいなものが、運協の委員をやることによって複眼的というか、そういった視点を得られたのもよかったなと思って。

B型事業もいろいろ、次から次へと試練が訪れまして、例えば近隣の問題であるとか、あるいは非常に厳しい公募の条件があったりとか、あとは政治的な絡みもあったりとか、いろいろな試練があったのも、やはり市民側の立場だけではなくて、この運協としての視点があったから、仲間と一緒に乗り越えられたこともあったかなと、今思うと非常にしております。なので、本当にこの経験はすばらしいものでありまして、学びの機会でもありまして、先ほど、もう不安しかないと申し上げましたけれども、こういった不安も抱えつつ、じゃあどうやってこの先、一市民として国立市の地域包括ケアであったり、総合事業であったり、市民の立場としてどうやって関わっていくかにも非常に大きな指針を得られたなと思っていますので、これからは外野からになります。いろいろ、地域包括を国立市としてどうしていこうかというところで個人として考えていきたいなと思っております。引き続き、どこかでお会いすることもあるかとは思いますが、よろしく願いいたします。

【榎本委員】

榎本と申します。福祉関係というのはほかのことと違って、大変な部門、部署ということは昔から感じておりましたけれども、今回こういうことでお勉強させていただきまして、国から下りてきたいろいろなものは、各自治体に下りて、さらにそれを市民にまで下ろすということがいかに大変なことかということを実際に学ばせていただきまして、ふだん、福祉関係の部署にいらっしゃる関係の方に本当にお礼を申し上げます。簡単に今までは、立場上、こういうのがあるからお受けになったらとか、簡単に書類を持って回って、判こもらったりしてたんですけど、いいお勉強させてもらいまして、私の立場としては、いかに健康寿命を長く、介護保険を使わないでフレイルを遅らせてということをして一人一人心がけることが大切なんだということがよく分かりました。いろいろお勉

強させていただきまして、ありがとうございました。

【林会長】

私、年齢的に言うと、70歳に昨年の9月になりまして、ですから運協の委員をやるようになったのは40代だったんですね、その頃は。というのを気がついて、随分長いこと、こんなに長くやっついていいのかなと思っています。それと、いろいろ変化もありまして、確定申告をやらせていただいているのですが、職業欄に書くことがなくなったんですね。それまでは大学教員とか書いてたんですが、それも、雇用関係がなくなったので、だから空欄でいいのかなと思っていたら、書き方の手引みたいなのがあって、その場合は年金受給者と書くようになってまして、ああそうか、空欄じゃなくて、年金受給者と書ける。いかにでも、今本当、年金頼りなので、年金の大事さというのを身に染みて感じるようになっております。70歳になったということは、健康保険組合のほうで、高齢者何とかというあれになって、それまで3割負担だったのが2割負担になったんです。これは健康保険組合によって違うのかもしれませんが、たまたま今、入っている健康保険組合ではそういうことになって、3割が2割になると大分違うんですね。ああいうのは大きな違いなんだなと思っています。

年金受給者というようなことになって、寂しいこともあります、いいこととしては、やはり時間ができるようになって、御存じのとおり、国立市では、シニアカレッジ研修という非常にユニークな教育活動というか、啓発活動をやっておりますが、その企画者の側だったんですが、とてもいい企画をしていると思って、たくさんの二十何回のオムニバスの授業があるのですが、それにあまり、仕事が、勤務があったときは出れなかったときもあったんですね。ただ、まだ本年度ですから、本年度のシニアカレッジ研修は1回だけ出れないときがあったんですが、それ以外の二十何回は、そのシニアカレッジ研修を受講することができて、とてもその意義というのか、改めて感じる事ができて、これは職業欄がそうなおかげかなと思っています。ということで、私、有識者枠と言うのか、何かその枠に属しているので、まだ任期というのが満了まで来ていないようですので、来年度もやらせていただきますので、どうぞよろしく申し上げます。

【新田副会長】

お疲れさまでございます。私は実はファクトって一番重要だと思ってる、ファクトというのは皆さんの、市民の声と実態ですよ。それをやっぱり乖離させないという。その中で施策をきちっとつくり上げるという、これが、私はやっぱり基本がない限り、ここにいる存在はないだろうなと思っています。アメリカン・カムズ・ファーストって、トランプ格好いいこと言ったんだけど、国立・カムズ・ファーストと言いたいんだけど、そうであると、私は国立の、非常にトランプのような発想になってしまってますので、やっぱりパーソン・カムズ・ファーストだと思うんですね。パーソン・カムズ・ファーストとはさっき彼女が言いましたけど、やっぱり人の命と暮らしと生きがいと幸せです。これを基本的に考えるということでやれば、私は間違いない施策ができるなと思っています。小林委員、小出委員、本当にお疲れさまでございますが、ほんとに貴重な御意見で、外からもぜひ、ぜひ反映させるような、何でもいから紙を書いて出してですね、そういうことが重要なんですね。この介護保険運協、まだ私も御迷惑をかけるか分かりませんが、やりますが、そういった意見をきちんと反映して、施策に持ち込むということをやりたいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。皆さん、本当にお疲れさまでございました。

【林会長】

事務局から何かありますか。部長から何かございますか。

【事務局】

本当に介護保険運営協議会で皆様方に御意見いろいろいただいて、本当にありがとうございました。ほかの委員会とかも参加することあるんですけども、やはりこの運協の皆様方の意見が交わされるという活気のある協議会は本当に私たちにとっても施策をつくっていく中で、貴重な意見だったと思います。本当にありがとうございました。

【事務局】

本当にこの期を担っていただきまして、ありがとうございました。おかげさまで第9期の介護保険事業計画、高齢者保健福祉計画の合体版の地域包括ケア計画もおかげさまで、このような形で出来て、今年度が9期の最初の年でした。来年度はその中間年になりまして、その次の年に向けた準備というような形になります。残ってくださる委員の皆様方には、引き続き、真摯な、ふだんからの御意見、御指摘等をいただきたいと思っております。また、任期を終えられる委員の皆様には、本当に感謝申し上げます。引き続き御意見等、市のほうにいただければと思います。今回、こういった形で皆様の御議論をいただきまして、やはり住宅施策、住まいということに関して、生活のベースですので、ここでいただいた意見をしっかり私としても庁内に返して、市としてどういふふうに対応していくんだというところにきちんとつなげていくようなことを担っていきたいと思っております。ほかにもいろいろとお話ししたいことございますが、また追い追いお話しさせていただくとしまして、本当に感謝申し上げます。どうもありがとうございました。

【林会長】

それでは、この会議ではこれで締めたいと思います。大変お疲れさまでした。

— 了 —